

## ☑ CT検査

CTとはComputed Tomography（コンピューター断層撮影）の略で、からだの外からX線を照射して人体の横断面の画像をコンピューターで再構成する装置です。

胸部CT検査では、肺を立体的な画像で細かく観察できるため、胸部X線検査では見つけにくい小さながんや、骨や心臓の影と重なって隠れてしまう病変を発見することができます。

撮影では胸部X線検査と同様にしっかりと息を吸い、息を止める時間は10秒程度と少し長くなります。

通常の胸部X線検査に比べると、被曝線量はCT検査の方が少し多くなりますが、早期肺がん発見率は10倍程度高く、特に40歳以上の喫煙者におすすめです。

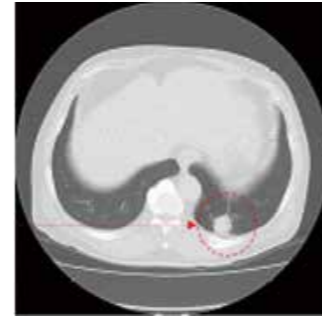
本会の人間ドックや会員制の肺専門ドック「東京から肺がんをなくす会(ALCA)」では、通常のCT検査より照射線量を少なくした低線量の胸部CT検査を行っています。



▼胸部X線画像



▼胸部CT画像



▲胸部CT画像

こんにちは!

# 健康支援センターです!

本会の**健康支援センター**の仕事をご紹介します。

## 放射線部

放射線部では、職域や地域、学校などの検（健）診で、従業員や住民、児童・生徒を対象に、胸部X線検査、CT検査、胃部X線検査、マンモグラフィ検査、全脊柱撮影などX線を使用したさまざまな検査を行っています。また本会の施設内で実施している健康診断や人間ドックの他に、検査機器を搭載した検診車による巡回検（健）診も実施しており、企業や学校、行政施設などにかがって検査を行うこともあります。現在、診療放射線技師20人と撮影介助係4人のスタッフで、各種の検査に対応しています。当部が担当している主な検査をご紹介します。



▲胃部X線撮影

▶バリウムと発泡剤



## ☑ 胃部X線検査

バリウムと胃を膨らませる発泡剤を飲んで、X線を使って食道、胃、十二指腸までを観察する検査です。胃がんの発見が主な目的ですが、潰瘍やポリープ、胃炎の診断も行います。また、胆石などの腹部石灰化や周辺臓器による胃壁の圧排などの間接的な所見の診断も可能です。

胃の内側の壁にバリウムを付着させるため、受診者自身で360°回転したり、左右にからだの向きを変えたりして体位変換をしていただきます。また、胃が膨らんだ状態でないと胃の表面の模様やヒダが見にくく、正確な診断ができないので、検査中はゲップを我慢していただきます。

胃の形は人によってさまざまです。胃の形に応じて適切な撮影を行い、より広い範囲を描出できるよう心がけています。また、この検査は受診者の協力がとても必要な検査です。わかりやすい言葉で伝えることを意識し、安心して検査を受けていただけるように努めています。

## ☑ 胸部X線検査

胸部レントゲン検査とも呼ばれています。

成人の健康診断では主に肺がんや結核などの発見を目的にしていますが、肺炎のような炎症も見つけることができます。

児童・生徒を対象とした心臓検診の2次検査では、画像から心臓の大きさを計測することで重要な情報が得られます。

X線検査では磁気バンやカイロ、ネックレス、部分的に締めつけのある衣類、金属やプラスチックのついた衣類などは、正確な診断の妨げとなるので取り外していただきます。

検査では姿勢矯正をした後、大きく息を吸って止めてから撮影します。息の吸い方が少ないと肺の膨らみが足りず病気の発見が難しくなるため、大きく息を吸っていただけるよう声のかけ方に注意しています。

▼同じ人の胸部X線画像



息の吸い方が足りません



十分に息が吸えています



▲胸部X線撮影

▼マンモグラフィ撮影

## ☑ マンモグラフィ検査

マンモグラフィとは乳房専用のX線装置のことで、早期の乳がんを見つけるためにとても有効な画像検査の一つです。1次検診だけでなく、精密検査でも使用します。

マンモグラフィ検査は乳腺構造を1枚の画像で表すことができ、経年的な乳腺構造の比較が容易であることや、しこりを形成しない早期乳がんのサインである石灰化を発見できることなどが優れた点とされています。

検査は圧迫板というアクリル板で乳房を挟み、薄く平らに圧迫して撮影します。これは少ない放射線量で質の高い画像を撮るためにとても重要なことです。

圧迫する時に多少の痛みがありますが、からだの力をできるだけ抜くようにすると痛みが軽減されるので、リラックスしていただけるよう努めています。



▲圧迫板



正確な診断を行うためには、診断の基本となる画像の質を高くすることが重要で、それには、精度管理された撮影装置や機材を使用して、高い撮影技術で検査をすることが必要です。そのため、私たち診療放射線技師は、研修会や学会、勉強会へ積極的に参加し、各種の専門的な資格を取得して検査に臨んでいます。受診者とじかに接して検査を行うので、専門的な知識の習得に加えて、安心して気持ちよく受けていただけるように心がけています。



## 小児健康相談室のご案内

検診で異常を指摘された子どもを対象に、専門医によるフォローアップを行っています

学校検診で異常を指摘されたけれど、近くに専門医がない。軽微な異常で治療は必要ないけれど、定期的な経過観察は必要。「小児健康相談室」では、そうした子どもたちを対象として、専門医による経過観察、生活指導を行っています。

検査や診断には費用がかかります(保険診療)。本会で学校検診を受けた方は、検査・検診時のデータを用いて診療や相談が可能です。

前田美穂先生による  
『貧血電話相談室』  
養護教諭・保健師・看護師からの相談をお受けします(無料)  
開催日：第1水曜日 14時半～15時半

	腎臓病	心臓病	貧血	脊柱側弯症	肥満・コレステロール	思春期やせ症
担当医	村上陸美 日本医科大学 名誉教授	浅井利夫 東京女子医科大学 名誉教授	前田美穂 日本医科大学 名誉教授	南昌平 聖隷佐倉市民病院 名誉院長	岡田知雄 神奈川工科大学 健康医療科学部特任教授	鈴木真理 跡見学園女子大学 心理学部特任教授
外来日	第3木曜日 午前	第1木曜日 午後	第1水曜日 午後	第2月曜日 午後 第4金曜日 午後	第3火曜日 午後	第2木曜日 午後



問い合わせ・申し込み

公益財団法人 東京都予防医学協会 地域・学校保健事業部  
東京都新宿区市谷砂土原町1-2

☎ 03-3269-1131